

KOMAZAWA × 1 中央大学 ○

駒澤大学 6 - 1 中央大学



ゴールを決め喜びを表す巻

(撮影・川崎篤彦)

怒濤の攻撃！前半で6得点！！

手を緩めない駒大のしたたかさ

グラウンドに照らし出された駒大イレブンは前半、ピッチ上で躍動した。嵐のような怒濤の攻撃で人々の度肝を抜き、人々はその攻撃に酔いしれた。

開始20秒、電光石火の攻撃を仕掛ける。左SHの東平のスルーパスに、前日のミーティングで裏のスベースに2列目から抜けていく動きに中大DFが弱いということだったので狙っていたという竹内がハーフライン付近から絶妙のタイミングで飛び出す。その竹内からのクロスに巻のヘッドが炸裂。前節流経大に完敗した悪い流れをこの先制点で払拭した。この日の駒大は中大の弱点であるDFの背後のスベースを突いて好機を創出。さらに、前線で攻撃のターゲットとなった巻の真骨頂である空中戦に加え、供給されるボールをスルーすることにより2列目からの竹内、田谷のスベースへの飛び出しを促進。これにより駒大は面白いように決定機を見出し、中大DFに混乱をもたらした。巻の活躍はそれに止まらず、先制点に続き27分に田谷の、32分には、顔を上げてくれるのでタイミングがわかる「巻」という原のクロスに反応し、ハットトリックを達成。最高の形で勝利の原動力となった。そしてこの日、スタメン出場を果たした竹内も異彩を放った。先制点のアシストに続き17分、田谷のクロスを豪快なボレーで合わせ公式戦初ゴールを飾るとさらに19分、細かいパス回しから抜け出し、GKとの1対1を冷静にゴールに流し込んだ。(得点は)いいボールが周りからきたのでそれを決めるだけだった。試合後に語る竹内からは溢れんばかりの満足感が伝わってきた。原にも開幕戦以来のゴールが生まれ、前半で試合を決定付けた駒大。

後半は前半の状況とは違って変わり、選手が口を揃えて話した風下の影響と守備陣を立て直した中大DFの前に後半はシュート0本。後半の戦いには課題を残してしまっただが、前半6点を奪っても全力で走り続ける選手